
War

クノウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

War

【コード】

N1313A

【作者名】

クノウ

【あらすじ】

最終兵器彼女に登場するはなちゃんのストーリー。

『タタタタタッ！ タタタッ！ パンッパンッ ……………』
『ダダダ！』 バタッ

(ああ、これでようやくあの人に会える)

あの日は待ちに待ったデートの日だった。

いつもよりも念入りにお化粧をして、お気に入りの洋服を着て、ちよつと期待なんかしたりして……

大好きな人とのデートだった。

彼は私が気付いてるとも知らずに、いつもポケットに小さな小箱を入れていた。

私は、彼が何時それを渡してくれるのか、楽しみにしていた。

そして、あの日が私と彼の“運命の日”になるはずだった。

運命の日は訪れた。

彼は、いつにも増して緊張していた。私も緊張していた。

なんだか付き合い始めた頃の2人のようで、どこか可笑しかった。

私は笑った。それに続いて彼も笑った。

いいムードになる……

「はな、聞いてくれ。」

彼の声が強張っている。私も固唾を飲んで次の言葉を待った。

でも、次に出た言葉は……

「な……なんだ、あれは？」 「へ？なに？」

『キーーーーーン…………ドゴーーーン…………』

まるで戦争映画でも見ているかのような光景。
次々と空から降ってくる細長い筒状の何か。

建物や地面に落ちると、それは周りを瓦礫の山にしていった。

「はな！逃げるんだ！！」

私は呆然としていて、逃げることも忘れていたのだ。

だんだん近づいてくる飛行機。そして爆弾……逃げ惑う人々。とても現実だとは思えなかった。

私は逃げた。彼と一緒に逃げた。どこに？どこに逃げれば助かる？
そのとき、近くに墜落した飛行機が落ちてきた。

（ああ……私、死ぬんだな。痛いのはやだな。どうせなら痛みを感じる暇もなく死にたいな。）

人間、しめ間際は意外と落ち着いてるものだと知った瞬間だった。
でも、こうしてまだ生きてる。なんで生きてるんだろう。

あの時私の見上げた視線の先には、墜落した飛行機と砕けたビルの
コンクリート。

死を覚悟した。でも死んでいない。

近くで高校生が友達の安否を確認している。瓦礫をかき分け何かを
……誰かを探していた。

やがて、瓦礫の中から血まみれの腕が見えた。

（ああ、あの子はもう死んでるな。）

それをみて、急に私は現実へと引き戻された。

頭が痛い。どうやら小さな破片がぶつかっただらしい。

足が痛い。転んだ時に捻っただらしい。

体中が痛い。落ち着いてみると体中擦り傷だらけだった。

「あの人は？」それだけが頭の中を駆け巡っていた。

私が無事なんだからあの人だって……

ふと、いやな光景が蘇る。

「はな、危ない!!」「キヤー……」

私の事を突き飛ばすあの人。そして瓦礫によってさえぎられる視界。いや、彼が瓦礫に埋もれていくのが見えたのだ。

おそろおそろ、元いた場所へ近づいてみる。

そこにあつたのは、瓦礫の山とそれに体を挟まれた“彼”と壊れて開いた箱に入った指輪だった。

私は急いで彼を引きずりだした。その後はどうしたか覚えていない。ただ、包帯でぐるぐる巻きにされた彼がベッドに横たわっていて、彼の両親が泣いていて、白衣を着た人が「今の状況ではこれが精一杯です。とにかく、覚悟はしておいてください。」と冷たく言い放っていた。

なんでこんなことになったんだろう？

私、何か悪い事をしたんだろうか？

ああ、血が流れている。

体の感覚も薄れていく。

目もかすんでいる。

三週間ほどしただろうか。彼は傷口から感染した病気で苦しみながら逝った。

私はすぐ自衛隊に入隊した。彼の味わった苦しみを一人でも多くの敵に味合わせたかった。

でも……

私は死にたかったただけだった。彼の事を忘れたかったただけだった。この戦争から逃げ出したかったただけだった。だから私は死ぬ。死ぬ。死ぬ。

あの人のいる世界に行ける。

ああ… 私はまだこんなにもあの人のことを……

握りしめていた手から指輪が地面に落ちた。

「待ってたぞ、はな。」「遅くなってごめんね。」「ああ、幸せになろうな。」「うん。」

一つの命が天に昇っていった

く終わりく

(後書き)

< font size = 2 > はなちゃんは難しいです。登場シーン
なすぎですから。

ただ、最後は幸せになって欲しくてこんな終わり方にしてみました。
どうでしょう？

自分的には60点くらいです。ちょっと手抜きが目立ちますので……
そつえば、手抜きのSSが投票で現在トップなんですよね。手抜
きなのに……

ねこ 70点くらいです。 < / font >

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1313a/>

War

2010年10月10日19時19分発行